

平成 24 年度大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	23S01	氏名	志手 伸圭
研究主題 —副主題—	「生きる力」の育成と中学校美術科の指導と評価の在り方 —表現領域の描く活動を通して—		
所属校	中野区立南中野中学校	派遣先	上越教育大学

項目	内容
I 研究の目的	<p>本研究は、『生きる力』とはどのようなものなのか、またどのような学習活動を通して育まれるのか、『生きる力』を育むための美術の表現活動とはどのようなもので、教師の指導と評価はどうあるべきか』について明らかにし、美術の指導と評価と、「生きる力」の育成とを一体的に捉え、「生きる力」を育む美術教育の在り方について考察を行うことを目的とする。</p> <p>本年度は特に、「どのような表現活動によって『生きる力』が育まれるか」、「生徒は実際の表現活動の中でどのように自身の力を培っているのか」を明らかにすることを目的とした。</p>
II 研究の方法	<p>1 「生きる力」とはどのような学習活動によって育成されるのか、またどのような表現活動によって「生きる力」を育成することができるのか、以下の文献から調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 8 年 中央教育審議会答申「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」 ・平成 20 年 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」 ・平成 20 年告示 中学校学習指導要領解説 美術編 ・平成 20 年告示 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 ・市川伸一『開かれた学びへの出発 21 世紀の学校の役割』金子書房、1998 ・市川伸一『学び意欲とスキルを育てる 今求められる学力向上策』小学館、2004 ・宮脇理監修、福田隆眞、福本謹一、茂木一司編集『美術科教育の基礎知識』建帛社、2001 <p>2 生徒は、実際にどのように自身の力を培っているのか、以下①、②の二つの描く活動を実践し、生徒の「活動の様子」、「完成作品」、「ワークシートの記述」を基に検証を行った。</p> <p>「風景画」の活動は、「A 対象を感じ取る過程」「B 主題を生み出す過程」「C 表現の構想を練る過程」「D 作品を表現する過程」の四つの思考過程、「ポスターデザイン」は「A 課題・目的を考える過程」「B 伝えたい内容を生み出す過程」「C 表現の構想を練る過程」「D 作品を表現する過程」の 4 つの思考過程を自立的にたどることによって、表現活動が促されると仮定した。そして、それぞれの過程において、生徒が自ら学び自ら考える力を発揮することを促すと同時に、生徒がどのように力を育んでいるのかを検証するために、感じたことや考えたことをワークシートに記述するように求めた。</p> <p>① 「風景画」 領 域： 感じたり考えたりしたことを表す活動 A 表現（1）（2） 対 象： 妙高市立妙高中学校 1 学年 A 組 28 名 B 組 28 名 日 程： 平成 24 年 6 月 16 日、26 日</p> <p>② 「ポスターデザイン」 領 域： 伝える、使うなど機能や目的を考えて表す活動 A 表現（1）（3） 対 象： 中野区立南中野中学校 2 学年 A 組：30 名 B 組：30 名 C 組：30 名 日 程： 平成 24 年 6 月 6 日～7 月 13 日</p>
III 研究の結果	<p>1 「生きる力」はどのような学習活動を通して育まれるのか、またどのような表現活動によって「生きる力」は育まれるのか。</p> <p>平成 8 年の答申では、「生きる力」を育むために、中学校においては、チームティーチングやグループ学習、個別学習などの「個に応じた指導の充実」と、自ら学び自ら考える「問題解決的な学習や体験的な学習の一層の充実」を図るとしている。また、「横断的、総合的な学習を一層推進し（中略）豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効である」とし、そのために総合的な学習の時間の導入を提言している。平成 10 年の教育課程審議会の答申でも、総合的な学習の時間について「我々は、この</p>

	<p>時間が、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことを目指す今回の教育課程の基準の改善の趣旨を実現する極めて重要な役割を担うものと考えている」と述べている。つまり、「総合的な学習の時間」で育てようとした力が「生きる力」であり、そこで想定されている自ら学び自ら考える学習活動が、「生きる力」を育む学習活動だと言える。</p> <p>平成20年の学習指導要領解説、総合的な学習の時間編では、①課題を見付け、②問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現するといった過程を、自立的にたどりながら学習活動をすすめる中で、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」が形成されると考えられている。</p> <p>2 生徒は実際の表現活動の中で、どのように自身の能力を培っているのか。</p> <p>生徒の「活動の様子」、「完成作品」、「ワークシートの記述」からは、生徒はそれぞれの過程で、自身の興味・関心に従って自ら学習し、思考力・判断力を発揮し、意欲的に活動に取り組んでいることを、明確に読み取ることができた。</p> <p>表現活動の思考過程を示すことによって、表現の目標となる、「主題」や「伝えたい内容」を、明確にもち、一貫性・継続性の伴った思考力を発揮し、作者の意図が明確に表現された作品が数多く見られた。また、作品から作者の意図が伝わりにくい作品であっても、作者の記述を読むことで、作者の意図を教師が明確に読み取ることができた。</p> <p>また、生徒は表現活動を通して「材料や用具の扱い方や色の作りなどの造形に関わる知識・技能」をはじめとし、ものをよく見ることによってもの見方や感じ方が変容することや、自分と他者のもの見方や感じ方が違うことなどの「認知に関わること」、テーマについて考えたことや深く知ったことなどの「テーマに関わること」、表現とは見たまま描くのではなく、自らの表現をしたいという思いや、伝えたいという思いが大切なことなどの「表現の考え方に関わること」、また「表現することの喜び」など、教科の枠組みにとどまらない、「豊かな人間性」に及ぶ多様な学習を得ていることが分かった。</p>
<p>IV 考察</p>	<p>1 「生きる力」はどのような学習活動によって育まれるのか、またどのような表現活動によって「生きる力」は育まれるのか。</p> <p>「自ら学び自ら考える力」といった「生きる力」を象徴する能力は、生徒が自立的に活動する思考過程の中で、その力を発揮することによって育まれるのだと考えられた。つまり美術の表現活動においては、作品制作の作業的な面よりも、思考過程を重視して、表現活動を促していかなければならないと言える。後に実践する「風景画」（感じたことや考えたことを表す活動）と「ポスターデザイン」（使う、伝えるなどの機能や目的を考えて表す活動）の二つの描く活動を自立的に促していくためには、四つの思考過程が必要であると考えられたが、その思考過程に沿って活動することで、生徒が自身の思考を客観的に捉えることによって、より明確に自ら学び自ら考える力を発揮し、自立的に表現活動を促していくことができると考えられた。</p> <p>2 生徒は実際の表現活動の中で、どのように自身の能力を培っているのか。</p> <p>自立的な表現活動で生徒が身に付ける力とは、生徒全員が共通に身に付けるような「美術の基本的な能力」ではなく、生徒一人一人が表現する過程で働かせた能力や体験的に学んだ知識や技能であった。つまり、表現活動を通して、生徒一人一人が自己の可能性を拡大させ、生徒個別の「生きる力」が育まれていると言える。</p> <p>今回、二つの描く活動を実践したが、いずれの活動においても、表現の発端となる過程によって「主題」や「伝えたい内容」といった表現の目標を獲得し、また、多くの生徒が、その過程から、継続性・一貫性を伴った思考力を発揮し、作者の意図が十分に表現された作品が多く見られた。その過程が自立的に活動を行うための動機付けとして重要だと考えられた。表現活動の思考過程を明確に示すと同時に、生徒自身が感じたことや考えたことを記述することによって客観的に捉えることができ、「ものの考え方や学び方」など、「自己教育力」の育成につながっていると考えられた。</p> <p>「生きる力」を育成するためには、教師は教科の枠組みを越えて指導と評価を行い、生徒の活動を自立的に促していけるように支援をしていくものであると結論付けた。</p>